

ネ ッ ト ワ ー ク 発 掘

第18号

平成16年7月

青森市^{につた}新田(1)遺跡出土の木製品

青森市教育委員会では、平成13年度から青森市西部の石江地区で土地区画整理事業並びに東北新幹線建設事業に係る埋蔵文化財包蔵地の試掘・確認調査を実施し、平成15年度から土地区画整理事業に係る石江遺跡群（新田(1)遺跡・新城平岡(4)遺跡・高間(1)遺跡等）の本発掘調査を行っています。

調査対象地が青森平野と丘陵部との境界部分であるため、これまで本市では調査事例のほとんどない沖積地についても調査対象としています。

沖積地の発掘調査は、丘陵地などの水気の少ない土地に比べ、水分が多く含まれることから木器など微生物に分解されやすい製品がそのままの形で残るケースが多く見受けられます。

調査の結果、新田(1)遺跡では沖積地部分から古代から近代にかけての溝跡29条などが見つかり、このうち古代の溝跡については10世紀後半～11世紀代の土器とともに2,000点を超える多量の木製品が出土しました。

出土した木製品には^{わん まげもの}椀や^{こもづち}曲物などの容器、下駄や^{こもづち}菰槌・^{こもづち}編物などの生活用具、^{すき}鋤などの農耕具があります。また他には、律令制度下で祭祀具として使われた^{いぐし}斎串、^{かたしろ}馬形・^{つけふだもっかん}刀形などの^{つけふだもっかん}付札木簡の形状をした木製品、「忌札見（現カ）知可」と記入された^{ものいみふだ}木簡（^{ひおうぎ}物忌札）や^{けがい}桧扇なども出土しており、^{けがい}化外の地と呼ばれた青森の地で、当時内国であった出羽国や陸奥国などの影響が強い遺跡が見つかることとなりました。ただし、平成15年度の調査は、集



木簡（物忌札）



桧扇出土状況

落の外周部にあたる沖積地上の溝跡中心の調査であり、隣接する一段高くなった台地上は未調査であったため、それを担った人々がどのような集団でどのような構造の集落で生活していたか不明です。今年度は、隣接する台地の発掘調査が実施される予定であるため、徐々に内容が明らかになっていくものと考えられます。

（青森市教育委員会 木村 淳 一）

古代「蝦夷」の馬 ー青森県の馬産の歴史ー

「唐花のみちのくに散る春砂哉」。これは三戸町川守田に建つ県指定史跡「唐馬の碑」に刻まれた句で、春砂とはベルシャ馬のことである。八代将軍徳川吉宗公から盛岡藩の南部公に下賜されたベルシャ馬が9歳で死んだことから、藩の御野馬別当石井新右衛門が寛保3年（1803）に、追善の句を添えて馬頭観世音としてこの碑を建立したものである。吉宗公は馬種改良に関心が深かったとされ、藩が春砂が放たれた住谷野牧（三戸町、南部町）をはじめ、直営の牧場9ヶ所（青森県内7ヶ所・岩手県内2ヶ所）を抱えている全国屈指の馬産地を経営する南部氏に授けたものである。藩牧経営の実態については、馬産の責任者である御野馬別当達が詳細に記録した『御野馬別当御用留』（活字本は青森県文化財保護協会から刊行）で知ることができる。この中には現在の下北半島尻屋崎の「寒立馬」の飼育形態に見られるような、冬期間も含めた通年放牧に至った経緯や、狼の被害が甚大でありその対策についても記述されている。その後明治13年には三本木（現十和田市）に陸軍軍馬局出張所が設置され、同29年には軍馬補充部三本木支部と改称され、同31年には陸軍が徴発した三本木管内の馬数は全国一の8414頭に及び国内随一の馬産地となっている。

このように近代は勿論、藩政時代においても南部地方は全国屈指の馬産地であるが、それでは本県の馬の生産はどの時代まで遡ることができるのであろうか。文献史料からは平安時代末期、奥州平泉藤原氏の時代までは確実に遡ることができる。『吾妻鏡』には藤原基衡が京都の仏師運慶に造仏の謝礼として糠部（青森県東部地方）駿馬50匹を贈ったことや、源頼朝が「戸立」（三戸など戸のつく地域で育った馬）に興味を持ったことなどが書かれている。さらに、源平の戦いで活躍した武将が乗った名馬の多くは、この「戸立」であると言われている。『源平盛衰記』（南北朝期の成立と考えられている）には熊谷直実の名馬「西楼」は「三戸立」、生唼は「七戸立」、また、宇治川の合戦で有名な梶原景季と佐々木高綱の先陣争いの際に二人が乗った馬は「三戸立」「七戸立」とみられている。文献史料での具体的な地名から明らかになっているのはここまでである。

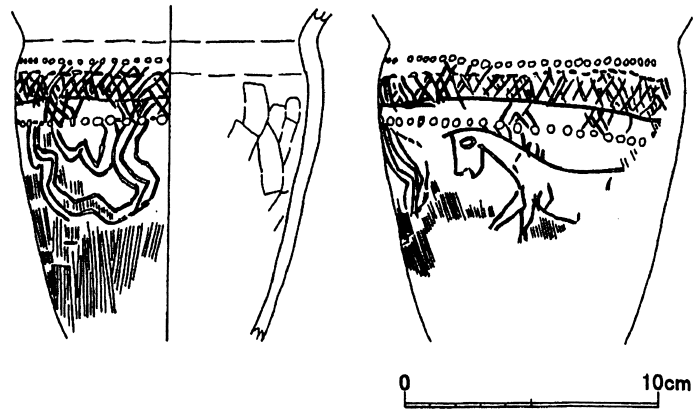
それ以前の8～12世紀は律令国家、王朝国家の時代であるが、この時期には本県地域を含む東北部は国家の直接的な支配が及ばず「化外の地」「蝦夷の地」として扱われてきた。隣接する国家支配地の陸奥国（盛岡市以南から福島県まで）、出羽国（秋田市以南の秋田県・山形県）とどのような関係があったのか不明な点が多いが、『類聚三代格』によれば延暦6年（787）や弘仁6年（815）など度々太政官符による狄馬（蝦夷や俘囚圏の馬）の禁輸令が出されている。これは、貴族や富豪が私的に狄馬を頻繁に買い求めたため、軍馬にも事欠くことから強壯で軍用に充てることのできる馬は国外（陸奥国外）に出してはならないとの国家の命令である。この対象となった馬が本県産の馬である確証はないがその可能性は極めて高いものと考えられている。

馬は実際の戦さにあたっては歩兵の何人分にも相当し、勝敗に大きな影響を与えるだけでなく、役人達の交通手段としても、また、農耕や貨物の運搬にも貴重な存在である。特に北の寒い地方で育った良馬を何頭も所有することは貴族や富豪のステータスシンボルでもある。『延喜式』には、駅馬の値段は陸奥国産の上馬、中馬で、同じく良馬の産地とされる出羽・信濃・常陸・下野の各国で産する馬よりも約2割も高かったことが記述されている。したがって、当時は農業と共に馬産は「蝦夷の地」の人々にとって最も重要な産業であったことがうかがえる。

馬はどの時代に日本に持ち込まれ、青森県ではいつから馬産が行われるようになったのか見てみよ

う。全国的な遺跡の発掘調査からは馬の遺骸が確認された最も古いものは宮崎県六野原地下式横穴墓群からのもので5世紀中頃であり、これ以後古墳時代には九州のみならず、大阪、長野、千葉、群馬等各地の古墳から出土している。『日本書紀』応神紀には百済王（朝鮮半島）から2頭の馬が馬産の技術者とともに贈られ、その後、『日本書紀』継体紀には逆に百済に築紫国の馬40頭を送ったとの記事がある。いずれも5世紀頃の話である。考古学上の知見とも大きな矛盾がないことから、この頃に朝鮮半島からもたらされたものと一般的には考えられている。

青森県では7世紀（飛鳥時代）から11世紀（平安時代後期）までは、青森市三内遺跡・百石町根岸(2)遺跡など10遺跡から馬の遺骸が、また、出土馬具の多くは轡であるが身分の高い者が使用する壺鏡つぼあぶみが出土した七戸町貝ノ口遺跡や、金銅製の杏葉ぎょうよう（馬の尻飾り具）が出土した八戸市根城古墳など約20遺跡がある。この数は当時陸奥国や出羽国であった東北地方の各県と比較して圧倒的に多い。考古学の場合は遺跡の環境や偶然性にも左右されるが、少なくともこのことは陸奥国や出羽国の内国以上に馬との関わりが深かったことを示すものと言えよう。特に尾上町李平下安原遺跡の場合は4～5頭分で、しかも子馬が多く、明らかに馬産を行っていたことが理解できる。さらに、田舎館村前川遺跡の場合は遺骸が擦文土器さつもんと一緒に出土し、また浪岡町野尻(4)遺跡では、図にみられるように擦文土器に、馬と馬の水飲場が描かれている擦文土器が出土していることから、擦文文化人（当時の北海道に住んだ人々）も積極的に馬産に関わっていたことが



馬と水飲場が描かれている擦文土器（表と裏、10世紀）
（青森県浪岡町野尻(4)遺跡出土）

も積極的に馬産に関わっていたことが推測される。なお、前川遺跡の馬は成馬であるにもかかわらず現在の日本在来の小型馬であるトカラ馬（沖縄県）よりも更に小さいことが知られている。ちなみに日本在来馬の分類は小型馬（トカラ馬、体高108～122cm、体重185kg前後）、中型馬（御崎馬・木曾馬、体高127～137cm、体重280kg前後）とされていることから、前川遺跡の場合はいかに小さい馬か想像できる（春砂は大型馬で体高149cm）。

八戸市丹後平古墳群（7世紀後半～8世紀初頭）では首長層の墓のそばに土坑（墓）に埋葬された馬が1頭発見されている。県内最古であると同時に、中世に一般的にみられる中型馬よりも大きい馬であることが指摘されている。この馬は冒頭述べた將軍吉宗公の春砂と同じく、馬種改良に用いられたとも想像できる。この丹後平古墳群の担い手達の集落は隣接する田面木平(1)遺跡である。集落と古墳から出土する遺物の中には朝鮮半島で造られたとみられる獅嚙式三累環頭大刀しがみきさんるいかんとうの把頭つかがしらや蕨手刀わらびて、鈿かたい帯金具（冠位のある者の帯飾）、玉類など多くの威信財（宝物）が出土している。また、遺跡の立地する状態からは農業の中でも特に生産力の高い水田稲作に依存しているとは考えられない。威信財の多さや、立地条件からは組織的な馬産経営主体の集団、それも大陸と何らかの関わりを持った集団の可能性も考えられる。この頃（7世紀後半）から、本県でも本格的（組織的）な馬産が始まり、古代・中世のみならず現代まで、津軽・南部を問わず全国屈指の馬産地として高く評価されてきた。

（県埋文センター 三浦 圭介）

平成16年度 青森県内遺跡発掘調査予定一覧

平成16年度の青森県内における発掘調査は、33市町村で延べ90件が予定されています。これは、昨年度より17件少ないものとなっています。この一覧は県教育庁文化財保護課のデータを基に作成しました。

青森市

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
石江遺跡群	石江字高間外	青森市教委	6,000㎡	5/24～11/5	東北新幹線建設	木村淳一・蝦名 純
石江遺跡群	石江字高間外	〃	30,000㎡	5/24～11/12	石江土地区画整理	木村淳一・相馬俊也 松橋智佳子
葛野(3)遺跡	大別内字西田	〃	12,000㎡	6/21～10/31	八甲田霊園第2期造成	設楽政健
小牧野遺跡	野沢字小牧野	〃	10㎡	7/1～7/15	市内遺跡発掘調査(補助事業・内容確認)	児玉大成
三内丸山(3)遺跡	三内字丸山	〃	未定	第1四半期	市内遺跡発掘調査(補助事業・アパート兼住宅建設)	設楽政健
三内地区	三内字丸山	〃	未定	第1四半期	市内遺跡発掘調査(補助事業・鉄塔建設)	設楽政健
赤坂遺跡	戸山字赤坂	〃	2,500㎡	第1四半期	宅地造成分譲	小野貴之・設楽政健
新町野遺跡	新町野字菅谷	〃	23,000㎡	年度中	東北新幹線建設	小野貴之
合子沢松森(2)遺跡	合子沢字松森	〃	3,500㎡	年度中	東北新幹線建設	小野貴之
岡町(9)遺跡	岡町字宮本	県文化財保護課	300㎡	5/17～5/28	県道青森・五所川原線道路改良	鈴木和子
三内丸山遺跡	三内字丸山	〃	2,500㎡	5/25～9/30	学術調査	川口 潤・中村美杉 齋藤 岳・秦 光次郎 佐々木雅裕・大平哲世 田中珠美
三内沢部(3)遺跡	三内字沢部	県埋文センター	16,000㎡	4/22～10/22	東北新幹線建設	小笠原雅行・小山内将 淳・伊藤由美子・杉野 森淳子・水谷真由美
三内沢部(3)遺跡	三内字沢部	〃	2,000㎡	9/1～10/22	東北新幹線建設	中嶋友文・岩田安之
三内遺跡隣接地	三内	〃	4,000㎡	9/1～10/22	東北新幹線建設	畠山 昇
米山(2)遺跡	宮田字米山	〃	6,000㎡	5/6～10/22	県新総合運動公園建設	大湯卓二・笹森一朗

弘前市

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
堀越城跡	堀越字柏田8-1外	弘前市教委	37,000㎡	5/24～平成27年	史跡堀越城跡保存修理	岩井浩介
独狐遺跡	独狐	〃	3,800㎡	5/24～17年 11/30	市道独狐葎苗線整備	岡本康嗣
史跡弘前城跡長勝寺構	西茂森2丁目	〃	18㎡	5月	寺院全面改築	岩井浩介
鬼沢猿沢(4)遺跡	鬼沢字猿沢	〃	156㎡	8/16～8/31	市道鬼沢菖蒲沢1号線整備	成田正彦・佐藤一憲
若葉遺跡	若葉2丁目	〃	200㎡	4/19～4/30	社会福祉施設整備	成田正彦・佐藤一憲
独狐遺跡	独狐字独狐森	〃	206㎡	5/24～6/11	農地造成	岡本康嗣
猿沢(4)遺跡	十腰内字猿沢	〃	1,000㎡	5/11～6/30	農地造成	成田正彦・佐藤一憲
平山(1)・(2)遺跡	中別所字平山	〃	230㎡	7/12～8/6	農道整備	成田正彦・佐藤一憲
牧野(2)遺跡	檜木字牧野	〃	100㎡	10/12～10/27	農道整備	成田正彦・佐藤一憲
史跡弘前城跡長勝寺構	西茂森1丁目	〃	50㎡	9/13～9/30	寺院改築	成田正彦・佐藤一憲

八戸市

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
法領屋敷遺跡	櫛引字外川31-6	八戸市教委	176㎡	4/12～4/16	農業用倉庫新築	杉山陽亮
稲荷(3)遺跡	市川町字稲荷岱31-4外	〃	329㎡	4/14～4/20	個人住宅新築	小久保拓也
法霊林遺跡	根城字西ノ沢64-1外	〃	658㎡	4/14～5/14	集合住宅新築	杉山陽亮
市子林遺跡	妙字古戸1-1外	〃	1,680㎡	4/19～5/30	長芋作付	渡 則子

田向遺跡・田向冷水遺跡	田向字冷水・松ヶ崎	八戸市教委	17,000㎡	5/11～10/30	田向土地区画整理	小保内裕之・渡 則子 杉山陽亮・船場昌子
是川中居遺跡	是川字中居	〃	1,655㎡	5/11～8/11	縄文の里整備事業に伴う遺跡の範囲・内容等確認	村木 淳・小久保拓也
林ノ前遺跡	尻内町字熊ノ沢34-164外	〃	1,000㎡	8/25～10/8	個人土取り・植林	村木 淳・小久保拓也
櫛引遺跡	櫛引字館神	〃	80㎡	10/12～10/20	市史編纂に伴う範囲・内容確認	村木 淳・小久保拓也
新田・潟野遺跡	是川字新田・潟野	県埋文センター	8,000㎡	4/20～10/20	八戸南環状道路建設	中村哲也・斉藤慶史
潟野遺跡	是川字潟野	〃	8,000㎡	4/20～10/20	八戸南環状道路建設	茅野嘉雄・岡本 洋

五所川原市

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
広野遺跡 (KY1号案)	高野字広野96-1外	五所川原市教委	100㎡	5/10～5/31	学術	藤原弘明

三沢市

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
平畑(2)・(9)遺跡	平畑	三沢市教委	180,000㎡	4/19～8/6	(仮)三沢市民ファミリースポーツ広場整備	長尾正義
下夕沢遺跡外6遺跡	米軍基地内	〃	61,400㎡	9/1～11/30	米軍三沢基地内施設整備計画	長尾正義

むつ市

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
田名部館	小川町2丁目57	むつ市教委	146㎡	6/21～8/20	学術	柳谷孝志

蟹田町

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
大平山元II遺跡	大平字山元	蟹田町教委	800㎡	4月～	主要地方道鱒ヶ沢蟹田線(大平工区)道路改良	駒田 透
大平山元I遺跡	大平字山元	〃	100㎡	4月～	学術	駒田 透

平館村

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
間沢遺跡	今津字間沢	県文化財保護課	300㎡	6/28～8/6	南間沢通常砂防工事	工藤 忍

鱒ヶ沢町

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
大曲(2)遺跡	建石町字島田	鱒ヶ沢町教委	100㎡	5月	主要地方道弘前鱒ヶ沢線道路改良	中田書矢
上野高地遺跡	舞戸町字北禿	〃	1,500㎡	6月	町道舞戸南浮田線道路改良	中田書矢
東禿(2)遺跡	舞戸町字東禿	〃	未定	7月～8月	県営清水崎地区ふるさと農道緊急整備	中田書矢
種里城跡	種里町字大柳	〃	500㎡	9月～10月	学術	中田書矢

深浦町

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
日和見山遺跡	深浦字岡崎	深浦町教委	200㎡	5/10～5/14	畑地段差解消	伊東 信
津山遺跡	轟木字津山	〃	未定	未定	町道拡幅	伊東 信

森田村

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
石神遺跡	床舞字石神・藤山	森田村教委	300㎡	6/1～8/31	学術	佐野忠史

車力村

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
牛潟(2)遺跡	牛潟字鷺野沢81	車力村教委	6,000㎡	6/1～	個人土取り	高橋 潤

西目屋村

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
水上遺跡	砂子瀬字水上	県埋文センター	3,000㎡	5/6～7/22	津軽ダム建設	成田滋彦・平山明寿

尾上町

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
浅井(2)遺跡	猿賀字浅井	尾上町教委	30,000㎡	5/1～9/30	町内遺跡発掘調査	樋口徹典

浪岡町

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
篠原遺跡・吉内遺跡	本郷字篠原・吉内字山下	浪岡町教委	2,500㎡	5/17～7/30	県営本郷地区ふるさと農道緊急整備	木村浩一・竹ヶ原亜希
史跡 高屋敷館遺跡	高屋敷字野尻	〃	300㎡	8/2～10/29	史跡高屋敷館遺跡環境整備	木村浩一・竹ヶ原亜希

平賀町

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
太師森遺跡	新屋字遠手沢	平賀町教委	400㎡	5/12～8/11	学術	滝本 学
観音遺跡	尾崎字木戸口	〃	240㎡	未定	町道21号線改良	滝本 学

田舎館村

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
史跡 垂柳遺跡	垂柳字松立	田舎館村教委	2,200㎡	6/1～11/30	遺跡整備	武田嘉彦

野辺地町

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
向田遺跡	字向田	県埋文センター	2,000㎡	6/1～8/12	有戸北バイパス建設	工藤 大・小田川哲彦 小林雅人

七戸町

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
寒水・大沢遺跡	字寒水・字大沢	県埋文センター	10,370㎡	4/21～10/21	七戸バイパス建設	佐藤智生・工藤 司 小山内将淳
倉越(2)・大池館遺跡	字倉越・字大池	〃	9,700㎡	4/21～10/21	七戸バイパス建設	永嶋 豊・神 昌樹

百石町

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
根岸遺跡	字下谷地43-11	百石町教委	914㎡	未定	個人住宅新築	安藤 靖

六戸町

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
通目木遺跡外	大落瀬字通目木外	県埋文センター	3,500㎡	4/22～5/31	東北新幹線建設	工藤 大・小林雅人

上北町

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
大坊頭遺跡外	大浦字大坊頭外	県文化財保護課	2,000㎡	7/26～8/31	東北新幹線建設	能代谷征則
赤平(1)・(2)遺跡	新館字赤平	県埋文センター	2,000㎡	9/1～10/22	東北新幹線建設	小林雅人
赤平(3)遺跡	新館字赤平	〃	8,000㎡	4/22～10/21	東北新幹線建設	葛城和穂・山田雄正
東道ノ上(3)遺跡	大浦字東道ノ上	〃	2,400㎡	8/2～10/22	高清水幹線用水路建設整備	成田滋彦・平山明寿

東北町

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
鳥口平(8)遺跡	字鳥口平	東北町教委	1,000㎡	9/1～9/30	町内遺跡発掘調査	古屋敷則雄

下田町

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
天神山遺跡	字阿光坊105-12外	下田町教委	300㎡	7/13～8/27	学術	小谷地 肇
阿光坊遺跡	字阿光坊105-45外	〃	1,000㎡	7/13～8/27	学術	小谷地 肇
中野平遺跡	字染屋83-2外	〃	224㎡	4/20～4/30	宅地分譲	小谷地 肇
中野平遺跡	字染屋86-3外	〃	1,000㎡	4/20～4/21	貸倉庫建築	小谷地 肇
中野平遺跡	字中平下長根山1-260	〃	873㎡	4/20～5/19	貸家建築	小谷地 肇

中野平遺跡	字中平下長根山1-1113	下田町教委	1,280㎡	5/25~6/30	道路改修	小谷地 肇
ふくべ(3)遺跡	字神明前143-19外	〃	800㎡	9/7~9/17	分譲	小谷地 肇

天間林村

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
底田(1)遺跡	天間館字倉越44-4	天間林村教委	900㎡	5月	十和田幹線新設	上野 司
ニッ森貝塚	榎林字貝塚家ノ前	〃	60㎡	5月	村道改良	上野 司
ニッ森貝塚	榎林字貝塚家ノ前	〃	250㎡	6月	学術	上野 司

川内町

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
蛸崎城跡(錦城)	蛸崎字合野	川内町教委	50㎡	未定	学術	宮川淳一

東通村

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
岩屋近世貝塚	岩屋字加賀戸沢32-2外	東通村教委	500㎡	未定	学術	小山卓臣

佐井村

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
原田遺跡	字原田	佐井村教委	12,000㎡	未定	佐井村特別養護老人ホーム建設	未定
糠森遺跡	字糠森	〃	495㎡	未定	村道糠森中央線道路整備	未定
糠森遺跡	字糠森	〃	693㎡	未定	佐井村特定環境保全公共下水道整備	未定

三戸町

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
三戸城跡	梅内字城ノ下	三戸町教委	500㎡	6/1~3/31	学術	野田尚志

階上町

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
寺下遺跡	赤保内字寺下	階上町教委	125㎡	4/15~6/4	県単林道寺下土折線改良	森 淳
笹畑遺跡	道仏字笹畑	〃	4,000㎡	6/14~11/5	総合運動公園整備	森 淳

福地村

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
法師岡館・西久根遺跡	法師岡字田向・福田字西久根	県埋文センター	3,700㎡	4/21~10/20	農村振興総合整備	野村信生・齋藤 正

南郷村

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
荒谷遺跡	鳥守字下荒谷	南郷村教委	11,179㎡	5/24~8/23	村道鳥守根子久保線道路改良	馬場鉄男
田代遺跡	鳥守字番屋	県埋文センター	7,400㎡	5/6~10/20	県道八戸大野線道路改良	坂本真弓・長濱久美子

倉石村(平成16年7月1日五戸町と合併)

遺跡名	所在地	調査担当機関	調査面積	調査期間	調査原因	調査担当者
中市館跡	中市字前新田	倉石村教委	400㎡	9/1~11/12	学術	村本恵一郎
西張平遺跡	又重字西張平	県埋文センター	2,000㎡	4/20~8/31	中山間地域総合整備	中嶋友文・岩田安之

(県埋文センター調査第二グループ作成)

＜お知らせコーナー＞

【夏休みに考古学者になろう】

当センター主催の親子体験学習、「夏休み考古学者になろう」が今年度も開催されます。小学5年生以上中学生までの親子を対象に夏休み中に行われるもので、過去2回の参加者からは大変好評を得ています。

期 日：平成16年7月28日（水）・29日（木）の2日間

場所及び体験プログラム

○第1日目（7月28日）

上北郡七戸町倉越(2)遺跡での発掘調査体験

○第2日目（7月29日）

青森県埋蔵文化財調査センターにおいて出土
遺物の整理体験（土器の水洗い、接合、拓本）

問合せ先：青森県埋蔵文化財調査センター調査第二G



昨年度のようすから

【青森県埋蔵文化財発掘調査報告会】

今年度の発掘調査報告会は、下記の日程・内容を予定しています。

場 所：青森県総合社会教育センター
（青森市荒川字藤戸）

期 日：平成16年12月11日（土）・12日（日）

内 容：ミニシンポジウム

調査成果のスライド発表

出土遺物・パネルの展示

問合せ先：青森県埋蔵文化財調査センター調査第二G

【埋文センター ホームページ】

<http://www.pref.aomori.jp/maibun/>

今年度、ホームページの一部をリニューアルしました。沿革・教育普及活動・研究紀要・発掘調査予定など、これからも様々な情報を随時更新していく予定です。

ご質問、お問合せの際は下記枠内のアドレスにご連絡下さい。

《あとがき》

例年よりかなり早い桜の開花、そしてりんごの花も咲きました。そして季節はもう夏。暑さの中での発掘調査が急ピッチで進められています。

○毎日の慣れた作業も慎重に

○声かけて未然に防げ事故やけが

○整理、整頓、我が身を守る

（平成16年度県埋文センター標語募集入選作品から）

健康と安全を心からお祈りします。

ネットワーク発掘 第18号

平成16年7月

発行 青森県埋蔵文化財調査センター
（編集協力 青森県公立発掘調査機関連絡協議会）

〒038-0042 青森市新城字天田内152-15

TEL .017-788-5701 FAX .017-788-5702

Eメール myzo05@education.pref.aomori.jp

ホームページ <http://www.pref.aomori.jp/maibun/>

印刷 長尾印刷株式会社 TEL .017-726-7121